

## ■長期目標

自然環境と人間が持続可能な形で共存・共生することが可能で、エネルギー・食料・住宅など、私たちの生活に必要なものが持続可能かつ安全な形で供給され、あらゆる人々の人権が尊重される、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現します。

## ■2014年度の活動

### 目標1 — 「Fair Finance Guide」の推進

日本での「Fair Finance Guide」の活動を推進することで、お金の流れを使って社会をより良くしていく仕組みの構築を目指します。その第一歩として、「Fair Finance Guide」を日本中に周知し、ウェブサイトへ誘導します。そのために、ウェブサイト立ち上げに際してのイベントで100名以上の参加を得ます。1日のウェブサイトアクセス数を1,000アクセスを目指します。

#### 結果 — 達成度 80%

- ・12月8日にウェブサイト「Fair Finance Guide Japan」を立ち上げ、12月9日にウェブサイトオープン記念セミナーを開催し、100名を超す参加者にお越しいただきました。
- ・大手メディア含む10以上のメディアに取り上げられました。
- ・アクセス数累積は約2万件、1日のウェブサイトアクセス数は30件ほどを推移しています。

### 目標2 — エコ貯金を始めるきっかけづくり

預貯金先を選ぶ際、社会性をもって選ぶことを身近に感じてもらい、エコ貯金を始めるきっかけを作ります。年に2回、お金の流れを身近にするためのイベントやワークショップ等を開催し、各20名以上の参加を得ます。

#### 結果 — 達成度 40%

- ・Fair Finance Guide Japanに注力をして活動をしたため、イベントとしては7月に開催したソーシャル・エコノミー・ダイアログの1回となりました。ソーシャル・エコノミー・ダイアログの参加者は18名と、20名以上には届きませんでした。参加者には企業の方や研究者、金融機関関係者などがお越しいただきました。今後は一般の預金者層が参加しやすいイベントも開催していきたいと考えます。

### 目標3 — エコ貯金アクションの発信者を増やす

ウェブサイト閲覧者やイベント参加者に対して、ツイッター・フェイスブック等を利用して、「社会性を考慮に入れた結果、今預けている金融機関から他の金融機関にいくら預け替えました」という内容の発信をしてもらい、発信する人の数を400名以上目指します。

#### 結果 — 達成度 40%

- ・今年Fair Finance Guide Japanの立ち上げに注力したため、目標に書いてある内容の発信をしてもらうというアクションはまだ十分促せませんでした。しかし、Fair Finance Guide Japanの立ち上げ以降、ツイッターやフェイスブックでエコ貯金について発言している方が増えており、Fair Finance GuideのFBページの「いいね!」数も約800まで伸びています。

## 目標 4 - 金融機関への働きかけ

「Fair Finance Guide Japan」の評価対象となっている 5 行の金融機関のうち 2 行以上が CSR ポリシー（社会的責任を果たすための企業方針）の見直しを検討し始めることを目指します

### 結果 - 達成度 70%

金融機関が CSR ポリシーの見直しをすると公表はしていませんが、金融機関の CSR 担当者からは Fair Finance Guide Japan での評価を上げていきたい旨のご発言もありました。来年度はこの目標が実現するように、更に金融機関との対話に努めたいと考えています。



上: Web サイト記念セミナーでは海外 NGO や金融機関担当者も参加し、およそ 70 名が交流しました。

下: Web サイトでは銀行へのメッセージを送ることができます。



## 年間活動実績

- 4 月 アースデイ東京 2014 に出展
- 5 月 月刊誌『社会運動』に記事を寄稿
- 7 月 ソーシャル・エコノミー・ダイアログを開催
- 8 月 ウェブサイト『日刊 SPA!』の記事に取り上げられる
- 12 月 Fair Finance Guide Japan ウェブサイトをオープン
- 12 月 Fair Finance Guide Japan ウェブサイトオープン記念セミナーを開催
- 12 月 エコプロダクツ 2014 に出展
- 12 月 オルタナオンライン、朝日新聞、しんぶん赤旗、週刊金融財政事情、連合通信の記事に取り上げられる
- 1 月 日経エコロジー、毎日新聞、グローバルネットの記事に取り上げられる
- 2 月 THE BIG ISSUE JAPAN の記事に取り上げられる

### チームリーダー（土谷和之）より一言――

2015 年度に入ってから動きとなりますが、Fair Finance Guide Japan は第 3 回日経ソーシャルイニシアチブ大賞の国際部門ファイナリストにも選出され、メインストリームの経済界からも注目を集めています。また月 1 回開催しているフェア・ファイナンス・スクールも毎回 6～8 名程度の参加者を集め、高い評価を頂いています。今後はこうしたメディア露出、イベント開催を通じて得られた認知も生かしながら、銀行に対する気候変動等のテーマ別のキャンペーンを展開し、ウェブサイトへのアクセス数の増加や、銀行の方針改善へとつなげていきたいと考えています。ご期待ください。



## ■長期目標

- ①日本の青年と力を合わせて、世界の課題先進国・原子力災害被災国である日本の地域社会を、「生命を大事にする責任ある地域自給社会」へと転換します。
- ②東京の青年とグリーンな企業とNGOが力を合わせて、有機農業をはじめとする環境保全型農業、地域に根差した再生可能エネルギー、有機的な人のつながりから生まれる健康で安心な地域づくりの実践を進め、東京における「生命を大事にする責任ある自給社会づくり」を一般化します。
- ③上記の提言と実践を通して、国際社会が「持続可能地域目標 (Sustainable Community Goals)」を定め、過剰な農薬・化学肥料・化石燃料・紛争鉱物・原子力発電・遺伝子組み換え等のリスク規制を強化する仕組みを創造します。

## ■2014年度の活動

### 目標1－青年が地域の現場にアクセスできる仕組みを作る

「生命を大事にする責任ある自給社会」を創造する東京、福島、青森、およびその他の地域の青年をネットワークし、青年が地域の現場にアクセスできる仕組み（ツアー）を作ります。

#### 結果－達成度 75%

・六ヶ所村スタディツアー「地域と都市の『未来ある選択と連帯』を探る旅」の実施、福島県で開催された「ふくしまファーマーズマーケット ここふく」への出展、そして、毎月11日に新宿で復興ネットワークイベント「結イレブン」を開催しました。また、東京で開催されたチーム主催の勉強会やダイアログに東北あしたの森・山本勇樹さん、福島県の有機農家・大内督さんをお招きするなど、青森と福島とのネットワークを確立しました。現地ツアーや講師として呼び出す機会を複数回もつことによって現場ツアー等のノウハウを取得することができました。



上:現場ツアーではヒアリングの他、援農を行いました。

### 目標2－「未来の生命につながる生活」を始めるための場を創る

「東京における生命を大事にする地域自給社会づくり」に賛同する青年、企業、NGOをネットワークし、新宿を中心に「ミライフ＝未来の生命につながる生活」を始めるための場（農家市）を創ります。

#### 結果－達成度 70%

・農家市を開催するに至りませんでした。東京朝市アースデイマーケットに1回出展し、書籍販売や活動紹介を行いました。また、新宿でソーシャル・エコノミー・ダイアログを開催し、青年・企業・NGOの代表者として、多摩信用金庫・長島剛さん、大地を守る会・来島晋一さん、有機農家・大内督さん、東北あしたの森・山本勇樹さんをお招きし、「ミライフ＝未来の生命につながる生活」を始めるために必要な「責任ある経済とは何か」ということについて考える場を提供しました。

## 目標3 — 「持続可能地域目標 (Sustainable Community Goals)」を提言



2014年9月に予定している国連総会での「国連持続可能開発目標 (SDGs/Post2015)」の議論において、東日本大震災の教訓を踏まえた「持続可能地域目標 (Sustainable Community Goals)」を提言し、賛同する青年・企業・NGOを募り、日本政府に「生命を大事にする責任ある自給社会」への転換を働きかけます。

### 結果 — 達成度 35%

・勉強会を開催し、「持続可能な地域目標」を作成しましたが、政策提言するまでに至りませんでした。しかし、3月に行ったチーム合宿を通して今後の活動方針議論をし、消費者に一番影響力のある企業ともいえるコンビニエンスストアへのアクションをしていくことが決定しました。

### ■年間活動実績

- 4月 アースデイ東京 2014 出展  
有志で毎月 11 日に復興の集い「結イレブン」を定期開催(12回)
- 5月 六ヶ所村スタディツアー『地域と都市の「未来ある選択と連帯」を探る旅』を実施
- 6月 SDGs/Post2015 ユース提言勉強会を実施、アースデイマーケットにアクションブース出展
- 6月 ワカモノ×ミライなエネルギーについて提言を創ろう(六ヶ所村ツアー報告会)を実施(エネルギーとまちづくりプロジェクトと共催)
- 7月 有志で福島農家市スタディツアーを実施
- 7月 ソーシャル・エコノミー・ダイアログ「～企業・金融・市民活動の接点～」を実施
- 10月 土と平和の祭典 2014 に出展(エネルギーとまちづくりプロジェクトと合同出展)
- 10月 ソーシャル・エコノミー・ダイアログ「地域に愛を！おカネに意志を！～福島・青森・東京で『責任ある経済』の本質を語り合う～」を実施
- 12月 Fair Finance Guide Japan ウェブサイトオープン記念セミナーに協力
- 12月 エコプロダクツ 2014 に出展 (ワカモノ×ミライ企画)
- 3月 冊子「日常脱出マニュアル～これからのエコとおカネと就職の話」発行



上:冊子では、マスメディアでは捉えられない情報を提供しています。公式 Web サイトで閲覧可能。  
<http://www.aseed.org/miraifu/>

### チームリーダー (鈴木亮) より一言——

2011年、震災後に始まったミライフ(未来生活 now)も、はや5年目です。  
2012年はリオデジャネイロでの国連環境開発会議(Rio+20)に参加。  
2013~2014年は有機農業を主軸とした社会づくりの進化系を模索し、冊子「日常脱出マニュアル～これからのエコとおカネと就職の話」にまとめました。  
2015~2016年は世界的にも普及が進む「コンビニ社会」を切り口に、政策提言NGOと若者がつながる事業を展開します。  
未来のいのちにつながるライフ=ミライフと一緒に広めましょう。

